


# 川崎市総合計画 第3期実施計画

令和4（2022）年3月

川 崎 市



I 総論

# 10 第2期川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂版

## (1) これまでの経過と計画の位置づけ

### ① これまでの経過

本市では、「まち・ひと・しごと創生法」（以下「創生法」という。）に基づき、平成 28（2016）年 3 月に「川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第 1 期総合戦略」という。）を策定し、都市部ならではの地方創生をめざした取組を進めてきました。

その後、国の第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の第 2 期戦略」という。）の趣旨を勘案しながら、総合計画第 2 期実施計画に基づき、第 2 期川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第 2 期総合戦略」という。）を策定し、引き続き地方創生の取組を進めてきました。

令和 2（2020）年 12 月、国は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020 改訂版）（以下「国の第 2 期戦略改訂版」という。）を策定しました。

### ② 本市における第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版の位置づけ

#### ア 国の総合戦略との関係

創生法第 10 条においては、「市町村は、国や県の総合戦略を勘案して、当該市町村の区域の実情に応じた基本的な計画（市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略）を定めるよう努めなければならない。」と規定されています。

これを踏まえ、第 2 期総合戦略については、国の第 2 期戦略の趣旨を勘案して策定しました。このたび、国の第 2 期戦略改訂版が策定されたことから、その趣旨を勘案し、本市においても第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版（以下「第 2 期総合戦略改訂版」という。）を策定します。

#### イ 本市総合計画との関係と計画の統合

本市総合計画は、計画策定後 30 年程度を展望し、本市がめざす都市像や、まちづくりの基本目標、5 つの基本政策を定めた「基本構想」、計画策定後の概ね 10 年間を対象として、「基本構想」に定める 5 つの基本政策を体系的に推進するための 23 の政策及びその方向性を明らかにした「基本計画」、これらのビジョン・方向性に基づき、中期の具体的な取組を定める「実施計画」の 3 層から構成された市政運営の基本となる計画です。

また、本市総合計画では、市政運営のビジョンである基本構想や基本計画でめざしていく、「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち」を実現し、ビジョンを具現化するための中長期的かつ分野横断的な視点を持った「かわさき 10 年戦略」を設定し、戦略的にまちづくりを進めています。

本市総合計画は、人口の現状を分析し、将来人口を推計の上、基本政策や施策・事業を定め、成果指標を設定するなど、地方創生の基本的な方向性を包含するものであることから、本市では第 1 期・第 2 期総合戦略とともに本市の総合計画と整合を図りながら策定しました。

第 2 期総合戦略改訂版については、本市の総合計画の取組と地方創生の取組をより一体的に推進するために、第 3 期実施計画の策定に合わせて統合して策定することとし、効率的に計画を運用していきます。

### ③ 計画期間

第 2 期総合戦略改訂版の計画期間は、第 3 期実施計画との整合を図るため、令和 4（2022）年度から令和 7（2025）年度までとします。なお、国において新たな戦略が策定された際には、本市の総合計画の策定スケジュールに合わせて内容を見直すなど、状況に応じて対応を検討します。

## (2) 人口ビジョン

人口ビジョンは、創生法第 10 条に基づき、第 2 期総合戦略改訂版の基礎資料とするため、令和 4 (2022) 年 2 月に公表した「川崎市総合計画第 3 期実施計画の策定に向けた将来人口推計 (更新版)」をもとに、本市の人口の現状分析を踏まえた課題を整理するとともに、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」(以下「長期ビジョン」という。)を勘案しつつ、将来人口のシミュレーションと今後の本市のめざすべき方向を示すものです。なお、対象期間は長期ビジョンと同様に令和 42 (2060) 年までとします。詳細は資料編「第 2 期川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版 人口ビジョン」を参照してください。

## (3) 総合戦略

### ① 第 2 期総合戦略改訂版の基本的な考え方

これまでの第 1 期・第 2 期総合戦略は、本市の総合計画をもとに「基本目標」や「7 つの基本的方向」を掲げ、それに紐づく具体的な取組とその数値目標・重要業績評価指標 (KPI) を設定するなど、本市の総合計画との整合を図りながら策定してきました。

第 2 期総合戦略改訂版については、第 3 期実施計画と統合することから、総合戦略における基本目標や取組等は、第 3 期実施計画における「かわさき 10 年戦略」や「政策体系別計画」で示すこととします。

### ② 数値目標・重要業績評価指標 (KPI) と進化管理

第 2 期総合戦略改訂版は第 3 期実施計画と統合することから、第 3 期実施計画の「主な成果指標」を第 2 期総合戦略改訂版の数値目標・重要業績評価指標 (KPI) として設定するとともに、「第 3 期実施計画期間における目標値」を第 2 期総合戦略改訂版の目標値として設定します。また、フォローアップについても、第 3 期実施計画の進化管理・評価によって行うこととします。



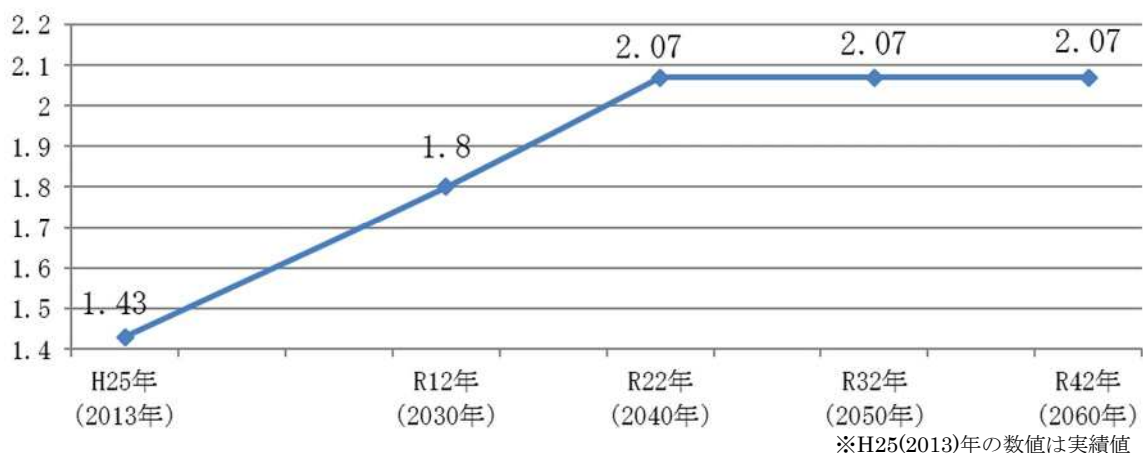
## ■ 第2期川崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂版 人口ビジョン

### 1 将来人口のシミュレーション

#### (1) シミュレーションにあたって

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、若い世代の結婚・子育ての希望が実現した場合の合計特殊出生率である「国民希望出生率＝1.8」が令和12（2030）年までに達成され、令和22（2040）年を目途に、人口規模が長期的に維持される水準である「人口置換水準＝2.07」に上昇した場合、令和42（2060）年に総人口1億人程度が確保されるものと見込んでいます。本市の将来人口のシミュレーションにあたっては、国の人口の将来展望の見込みを勘案し、シミュレーションを行います。

図表1 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」における合計特殊出生率の想定



#### (2) 前提条件

##### ア 合計特殊出生率の想定

合計特殊出生率は、起点を令和元（2019）年の本市全体の合計特殊出生率（1.31）とし、国の将来展望で想定する値（2.07）まで上昇するよう設定しています。国の将来展望で想定する値に到達後は一定としています。

##### イ 社会動態の想定

社会動態は、「川崎市総合計画第3期実施計画の策定に向けた将来人口推計（更新版）」における推計で使用した移動率の値と同じ設定にしています。

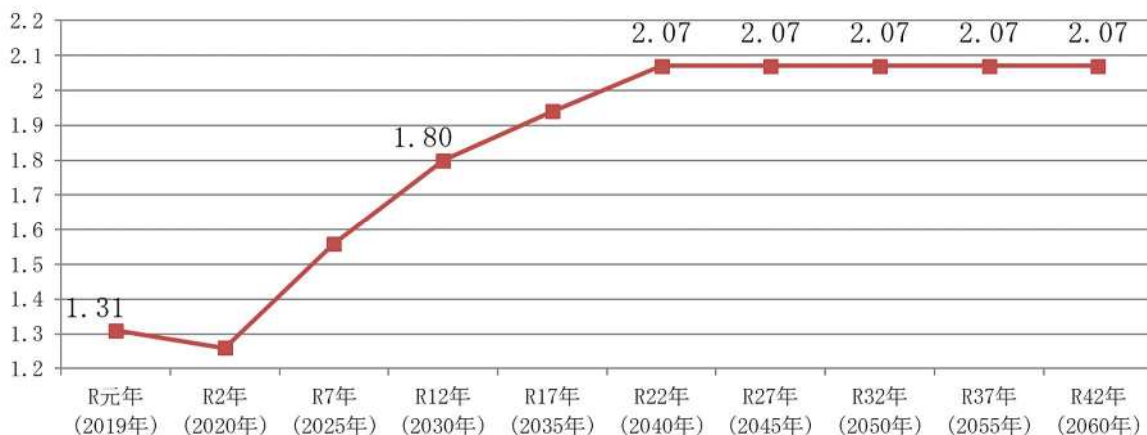
#### (3) シミュレーション結果

##### ア シミュレーションのシナリオ

合計特殊出生率が令和22(2040)年に2.07まで上昇

国の将来展望における合計特殊出生率の想定年次（R12[2030]:1.8 R22[2040]:2.07）でシミュレーションを行うと、次のとおりの結果になります。なお、起点を令和元（2019）年の本市全体の合計特殊出生率（1.31）としています。

図表2 シナリオにおける合計特殊出生率の想定

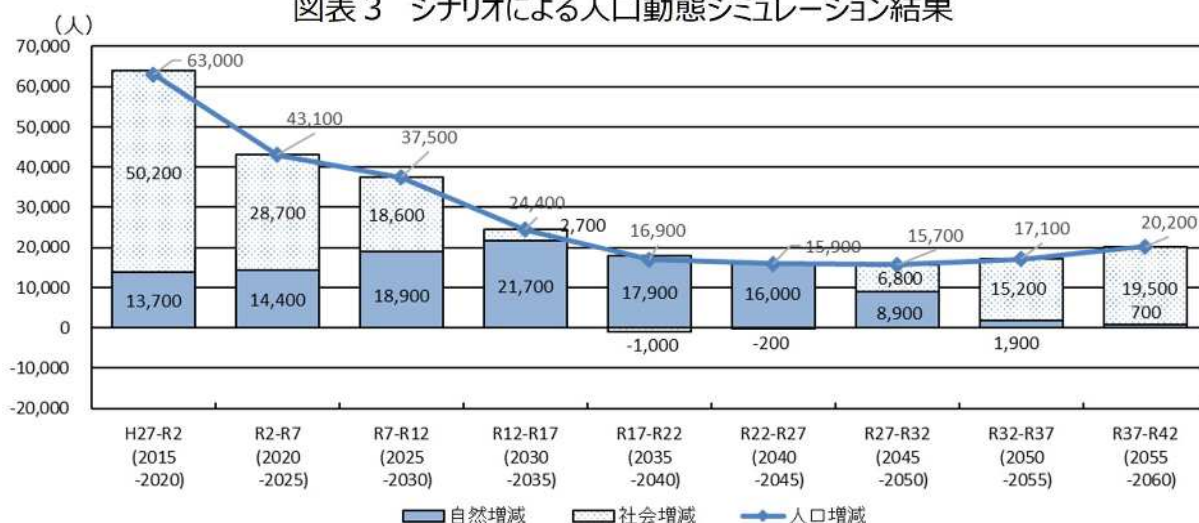


### イ 人口動態（自然動態、社会動態）のシミュレーション結果

自然動態は、令和12（2030）年から令和17（2035）年の期間をピークに減少に転じますが、令和37（2055）年から令和42（2060）年の期間まで自然増の状態が続きます。社会動態は、減少傾向をたどり、令和17（2035）年から令和22（2040）年の期間に社会増から社会減に転じますが、令和27（2045）年から令和32（2050）年の期間に再び社会増となります。

自然動態と社会動態を合わせた人口増加の状況は縮小傾向となりますが、令和32（2050）年から令和37（2055）年の間に増加に転じます。

図表3 シナリオによる人口動態シミュレーション結果



### ウ 総人口及び年齢3区分別人口のシミュレーション結果

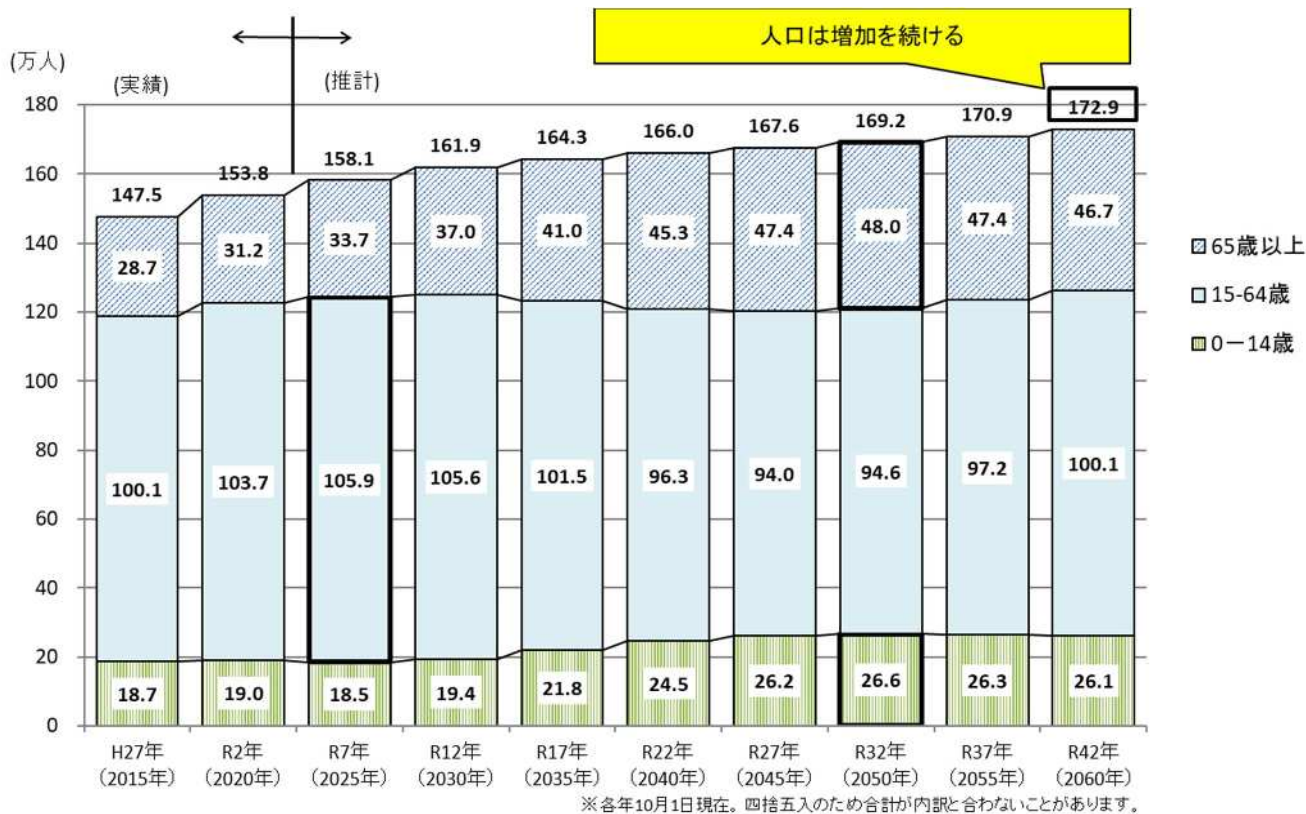
このシミュレーションによれば、本市における総人口は増加を続け、令和42（2060）年には172.9万人に達します。0-14歳人口は、合計特殊出生率の上昇により出生数が増加傾向を続けた結果、今後増加を続け、令和32（2050）年には26.6万人となります。15-64歳人口は、令和7（2025）年まで増加を続け、105.9万人をピークとして、一度減少に転じますが、令和32（2050）年には再び増加に転じます。65歳以上人口は、今後増加を続け、令和32（2050）年には48.0万人となります。

構成比別でみると0～14歳人口及び65歳以上人口は令和32（2050）年がピークとなります。生産年齢人口の15～64歳人口は平成27（2015）年がピークとなり、以降は減少が続きますが、令和37（2055）年には再び増加に転じます。



図表4 シナリオによるシミュレーション結果

	H27年 (2015年)	R2年 (2020年)	R7年 (2025年)	R12年 (2030年)	R17年 (2035年)	R22年 (2040年)	R27年 (2045年)	R32年 (2050年)	R37年 (2055年)	R42年 (2060年)
人口総数	1,475,200	1,538,300	1,581,300	1,618,800	1,643,200	1,660,100	1,676,000	1,691,600	1,708,700	1,728,900
男性	749,000	775,800	793,700	809,800	819,700	825,800	831,100	836,200	841,800	849,300
女性	726,200	762,500	787,600	809,000	823,500	834,400	844,900	855,400	866,900	879,600
0-14歳	187,000	189,600	184,800	193,800	218,100	244,900	262,100	265,700	263,100	261,200
うち0-4歳	66,100	64,100	64,800	79,800	91,400	95,600	99,000	96,000	93,200	96,500
15-64歳	1,001,300	1,037,200	1,059,200	1,055,500	1,014,700	962,500	940,100	945,600	971,700	1,000,800
65歳以上	287,000	311,500	337,400	369,600	410,400	452,600	473,800	480,300	473,900	466,900
うち75歳以上	131,600	160,300	199,200	215,400	221,800	237,200	264,100	294,900	307,200	305,500
構成比率										
0-14歳(%)	12.7%	12.3%	11.7%	12.0%	13.3%	14.8%	15.6%	15.7%	15.4%	15.1%
うち0-4歳	4.5%	4.2%	4.1%	4.9%	5.6%	5.8%	5.9%	5.7%	5.5%	5.6%
15-64歳(%)	67.9%	67.4%	67.0%	65.2%	61.8%	58.0%	56.1%	55.9%	56.9%	57.9%
65歳以上(%)	19.5%	20.2%	21.3%	22.8%	25.0%	27.3%	28.3%	28.4%	27.7%	27.0%
うち75歳以上(%)	8.9%	10.4%	12.6%	13.3%	13.5%	14.3%	15.8%	17.4%	18.0%	17.7%
対2020年人口総数	--	0	43,000	80,500	104,900	121,800	137,700	153,300	170,400	190,600

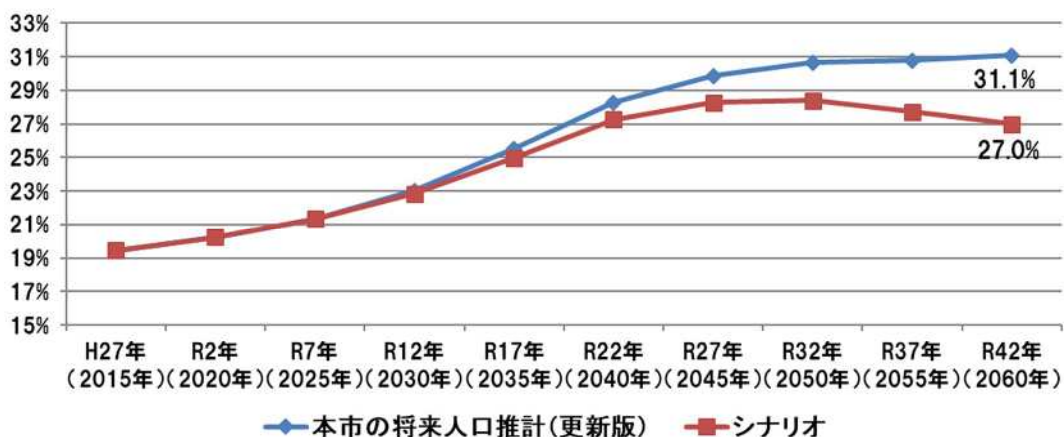


## エ シミュレーション結果

シナリオでは、少なくとも令和42（2060）年まで人口が増加を続け、172.9万人に達するとのシミュレーション結果になります。これは、「川崎市総合計画第3期実施計画の策定に向けた将来人口推計（更新版）」により得られた結果である148.7万人への減少と比較すると、大幅な人口の増加が見込まれることとなります。



図表5 シナリオによる総人口のシミュレーション結果比較



シナリオの実現は、極めて困難と考えられますが、急速な人口減少を緩和する取組が必要となります。

図表6 シナリオによる高齢化率のシミュレーション結果比較

